No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－%		

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (2010)	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (1505)	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
319	－	－	172	656	164	－	581	387	－	－	2.23	2.55	－

水セメント比	54 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.2 %	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:② 80.0:20.0 粗骨材①:② 60.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1%　冬期12月21日～3月10日-0.1%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項	W/C≦55%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.9\ N/mm^2$

よって　$m = 32.9\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (32.9 + 14.0) \times 100 = 54\ \% \leqq$【55%(上限値)】

∴W/C = 54　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 172　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 172 ÷ 54 × 100 = 319　kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 319 ÷ 3.02 = 106　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 46.2　%

(8)単位細骨材量(S)　Sv = (1000 − (W+Cv+A)) × s/a = 677 × 46.2 % = 313　ℓ/m³

S = Sv × 表乾密度 = 313 × 2.62 = 820　kg/m³

S1 = S × 80.0 % = 656　kg/m³

S2 = S × 20.0 % = 164　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv = 1000 − (W+Cv+Sv+A) = 1000 − 636 = 364　ℓ/m³

G = Gv × 表乾密度 = 364 × 2.66 = 968　kg/m³

G1 = G × 60.0 % = 581　kg/m³

G2 = G × 40.0 % = 387　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad1 = C × 添加率 = 319 × 0.7000 % = 2.23　kg/m³

Ad2 = C × 添加率 = 319 × 0.8000 % = 2.55　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
319	−	−	172	656	164	−	581	387	−	−	2.23	2.55	−

水セメント比	54 %	細骨材率	46.2 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	80.0:20.0
					粗骨材①:②	60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。 修正標準配合（夏期）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃	
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm	
	空気量	－％			

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（2010）	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（1505）	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
319	－	－	172	656	164	－	581	387	－	－	2.55	2.55	－

水セメント比	54 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	46.2 ％	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　80.0:20.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1%　冬期12月21日～3月10日-0.1%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項　W/C≦55%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.9\ N/mm^2$

よって　$m = 32.9\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (32.9 + 14.0) \times 100 = 54\ \% \leqq$【55%(上限値)】

∴W/C = 54　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 172　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 172 \div 54 \times 100 = 319$　kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 319 \div 3.02 = 106$　ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 46.2　%

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = (1000 - (W + Cv + A)) \times s/a = 677 \times 46.2\ \% = 313$　ℓ/m³

$S = Sv \times$ 表乾密度 $= 313 \times 2.62 = 820$　kg/m³

$S1 = S \times 80.0\ \% = 656$　kg/m³

$S2 = S \times 20.0\ \% = 164$　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　$Gv = 1000 - (W + Cv + Sv + A) = 1000 - 636 = 364$　ℓ/m³

$G = Gv \times$ 表乾密度 $= 364 \times 2.66 = 968$　kg/m³

$G1 = G \times 60.0\ \% = 581$　kg/m³

$G2 = G \times 40.0\ \% = 387$　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 319 \times 0.8000\ \% = 2.55$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 319 \times 0.8000\ \% = 2.55$　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
319	—	—	172	656	164	—	581	387	—	—	2.55	2.55	—

水セメント比	54 %	細骨材率	46.2 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:② 80.0:20.0
					粗骨材①:② 60.0:40.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名　角　智成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日　左期以外の期間については備考欄に記述。 修正標準配合（冬期）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－ %		

使用材料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫	A	化学法	5以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（2010）	A	化学法	20～10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫（1505）	A	化学法	15～5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤（標準形Ⅰ種）	Na_2Oeq % 0.5
混和剤②		フローリックAE－6		AE剤Ⅰ種	2.1
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水（上澄み水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
319	－	－	172	656	164	－	581	387	－	－	1.91	2.55	－

水セメント比	54 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.2 %	

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　80.0:20.0 粗骨材①:②　60.0:40.0

混和剤使用量（AE減水剤）：夏期6月12日～9月30日+0.1%　冬期12月21日～3月10日-0.1%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項　W/C≦55%

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 9　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.9\ N/mm^2$

よって　$m = 32.9\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$

$W/C = 25.4 \div (32.9 + 14.0) \times 100 = 54\ \% \leqq$【55%(上限値)】

∴W/C = 54　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 172　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 172 \div 54 \times 100 = 319$　kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 319 \div 3.02 = 106$　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 46.2　%

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = (1000 - (W + Cv + A)) \times s/a = 677 \times 46.2\ \% = 313$　ℓ/m³

$S = Sv \times$ 表乾密度 $= 313 \times 2.62 = 820$　kg/m³

S1 = S × 80.0 % = 656　kg/m³

S2 = S × 20.0 % = 164　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　$Gv = 1000 - (W + Cv + Sv + A) = 1000 - 636 = 364$　ℓ/m³

$G = Gv \times$ 表乾密度 $= 364 \times 2.66 = 968$　kg/m³

G1 = G × 60.0 % = 581　kg/m³

G2 = G × 40.0 % = 387　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad1 = C × 添加率 = 319 × 0.6000 % = 1.91　kg/m³

Ad2 = C × 添加率 = 319 × 0.8000 % = 2.55　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
319	−	−	172	656	164	−	581	387	−	−	1.91	2.55	−

水セメント比	54 %	細骨材率	46.2 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	80.0:20.0
					粗骨材①:②	60.0:40.0

備考